

研究推進ニュースレター

2015年度第2号 Vol.3



東京未来大学
研究推進委員会発行
2016年3月25日発行

ご挨拶

研究推進委員会では、本学の研究の活性化をめざし、皆様の研究に資する情報を提供できるように、年二回「研究推進レター」を発行することとしております。この度、2015年度第2号を発行する運びとなりました。今後ますます内容を充実させて参ります。お気づきの点がありましたら、当委員会宛にご意見をいただきたくお願いいたします。是非ご一読いただきまして、皆様の研究の一助となりましたら幸いに存じます。

2015年度研究推進委員会委員長 竹内貞一

科研費ニュース

平成28(2016)年度の本学の日本学術振興会科学研究費研究計画調書の申請状況は以下の通りです。

		平成28年度			平成27年度		
		こども心理 (保育・教育)	こども(心理)	モチベーション 行動科学部	こども(保育・ 教育)	こども(心理)	モチベーション 行動科学部
基盤研究(B)	一般	3	0	2	2	0	1
	海外学術調査	0	0	0	1	0	0
基盤研究(C)	一般	3	2	1	3	1	2
	特設分野研究	0	0	1	0	0	1
挑戦的萌芽研究		1	1	2	1	4	1
若手研究(B)		1	1	0	3	2	1
件数		8	4	6	10	7	6
合計件数				18			23
金額			124,942(千円)			141,268(千円)	

H27年度と比較すると、挑戦的萌芽研究や若手研究の(B)の件数がこども心理学部で10件から4件へと減少したことが影響し、全体の件数も23件から18件と5件減少しています。また、それに伴って、申請金額も16,326(千円)の減少となりました。

来年度は特に挑戦的萌芽研究や若手研究の(B)の件数が増えることを期待するところです。

平成29年度科研費スケジュールと要領はまだ発表されていませんが、昨年度は以下の通りでした。9月にはHPで告知されると思いますので、対象種目ごとにHPで確認してください。また、応募にあたっては、科研費の採択にも詳しい大坊学長の指導を仰ぐことをお勧めいたします。

*公募開始：平成27年9月1日(火)～

*学内期限：10月20日(火)

*提出期限：平成27年11月9日(月)(各審査機関への最終提出日時)

外部資金等公募情報 -学会以外の研究助成の紹介

◆吉田秀雄記念事業財団（常勤研究者の部）

本財団の研究助成には、博士後期課程に在籍する大学院生もありますが、ここでは大学に在職する助教以上の常勤研究者（個人またはグループ研究）についてご紹介します。詳しくはそれぞれの団体のHPでご確認ください。

1. 研究助成の目的

“広告・広報・メディアを中心とするマーケティング及びコミュニケーション”に関する研究助成を通じてその理論・技術及び知識・情報の普及・発展を図り、もって学術・文化・経済の持続的発展及び一般消費者の利益の増進に資することを目的とする。

2. 募集課題

(1) 自由課題

(2) 指定課題

- ①消費者との効果的なコミュニケーションを行う方法に関する研究
- ②広告・コミュニケーション研究やマーケティング研究に応用可能な他領域における関連研究
- ③博物館学、展示学、アーカイブ学の視点による広告資料活用の研究

3. 助成額・件数、 1件 300万円以内（10件程度）

4. 研究期間

(1) 単年研究 1ヵ年以内

(2) 継続研究 2ヵ年以内

平成28年度の申請書の受付期間は平成27年12月1日（火）～平成28年1月8日（金）（必着）でした。例年、この時期に募集しています。

（吉田秀雄記念事業財団HPより）

<http://www.yhmf.jp/activity/aid/outline.html>

◆中山隼雄科学技術文化財団

ゆとりがあり、豊かで活力ある社会を築くことに寄与することを目的として、「人間と遊び」という視点に立った科学技術に関する研究及び開発に対して幅広く助成するもので、助成事業は当財団の中核をなすものです。

1. 研究助成の対象

- (1) 助成研究A ゲームの分野の研究
- (2) 助成研究B 人間と遊びに関する研究一般
- (3) ゲームに関する「国際交流（参加）」

2. 助成の対象者

国内の大学院、大学、短大、高専、専門学校及び非営利の研究機関等に所属する研究者又はこれらの機関に所属する研究者を代表者とする共同研究グループ。

3. 募集期間

毎年7月から10月の3か月間

国際会議への参加助成は、年2回（1月15日～4月15日、7月15日～10月15日）募集

4. 助成金額

総額 総額70万円以内（国際交流の場合）

（中山隼雄科学技術文化財団HPより）

<http://www.nakayama-zaidan.or.jp/activity-grant.html>

研究紹介

このコーナーでは、東京未来大学の先生方の研究について、インタビュー形式でご紹介するとともに、大坊学長より、「採択のポイント」を解説していただきます。今回は、本年度、科学研究費の挑戦的萌芽研究に採択されたこども心理学部の藤後悦子先生、平成27年度豆類振興事業助成に採択された西村実穂先生のおふたりにお話を伺いました。

Q1 藤後悦子先生、採択された研究のテーマと概要、また、助成を取られての主な使い道、計画などがあればお教え下さい。



科研の今回のテーマは、「ジュニア期の地域スポーツにおけるスポーツハラスメント防止プログラムの開発」です。研究のきっかけは、親として子どものスポーツに関わる中で抱いてきた疑問を研究という形で問題提起したいと思ったからです。なぜコーチ達は小学生相手にこんなに怒鳴るんだろう…。子どものスポーツを取り巻く親達を含めた大人の関係は、なんて複雑なんだろう…。と参与観察の中で様々なことを考えてきました。「スポーツハラスメント」や「スポーツペアレンティング」という概念を取り入れて、子ども達によりよいスポーツ環境を提供できればと思ったのです。しかしながら私一人では限界がありますので、スポーツママでありかつ社会心理や臨床心理の視点を提供していただける大橋恵先生や井梅由美子先生をお誘いして応募しました。この分野では、私自身まだ実績を積んでいませんでしたので、「挑戦的萌芽研究」の分野を選びました。

科研費は主に、Web調査やインタビューの謝礼、学会発表の関連、投稿論文の関連に使用しています。

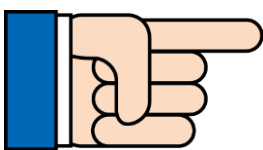
Q2 研究計画調書作成にあたってご苦労された点、工夫した、アドバイスなどありましたらお願いします。

「挑戦的萌芽研究」でしたので、いかにこの研究が社会的に意味があるかということを強調しました。特にスポーツ分野で「親」の視点を取り入れた研究が少なかったため、私たちは「親」を取り扱った研究の実績がありますよ、それから研究フィールドもありますよということを強調しました。

Q3 研究の進捗はいかがですか？また、今後の展望についてお聞かせ下さい。

3回申請したら通るかしら…。という思いで申請したら、なんと一回で通ったので、いきなり研究モードに入ったという感じでした。必死にこの2年間研究してきたというのが現状です。成果はかなり出ています。それもこれも、いつもペースを変えず、ぐいぐいと引っ張ってくれる恵先生といつも温かい笑顔でフォローしてくださる井梅先生という両輪が素晴らしいのです。さて、今年は最終年度ですので、教材開発をしないといけません…。これまた頑張らなくては…。両先生には、東京オリンピックまで付き合っただけでねとお願いしています！

大坊学長の「ここが採択のポイント」



科研費の申請、最初の申請で採択するのはそう多くはありません。時代的に大事なテーマで、アプローチがユニークであるとの評価を受けたからだと思います。心理学領域の申請ですが、学際性が大きいという場合には、注目されます。「萌芽的挑戦」の場合、申請テーマに直接つながる実績が少なからずあるのは、案外に採択されにくいものでもあります(基盤研究で申請すべきと判断されます)。研究成果を特定の学会のみならず、多様な成果発表をすることも期待されます。

Q1 西村実穂先生、採択された研究のテーマと概要、また、助成を取られての主な使い道、計画などがあればお教え下さい。



採択された研究テーマは「幼児の食事における雑豆の活用に関する研究」(平成27年度豆類振興事業助成金)です。保育の場における食をテーマとして研究をしています。これまでに偏食や食品添加物、放射能汚染などについて研究を進めてきました。今回助成を受けたテーマもその一環となります。具体的には近年消費量が減少している、いんげん、あずき、えんどうなどの雑豆類が幼児の食事にどのくらい使用されているのかを調査しています。保育の場と家庭に対する質問紙調査、ヒアリング調査を行い、子どもが口にしやすい雑豆類の調理の工夫や雑豆類消費の阻害要因を明らかにすることにより、子どもの食の充実につなげていきたいと考えています。助成金はヒアリング調査のための旅費、質問紙調査の郵送費等に使用しています。

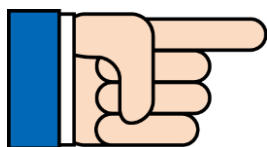
Q2 研究計画調書作成にあたってご苦労された点、工夫した、アドバイスなどありましたらお願いします。

他分野の人が読んでわかるように、ということを中心に心がけています。毎回というわけにはいかないのですが、可能であれば研究分野が違う人に申請書を読んで意見をもらっています。

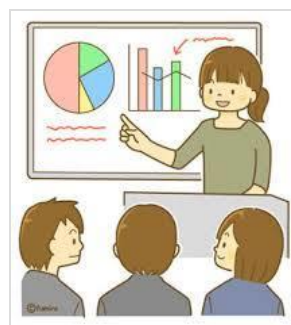
Q3 研究の進捗はいかがですか？また、今後の展望についてお聞かせ下さい。

おおむね計画通り進められています。まとめの段階に入っていますので、これまでに得たデータの整理を行っていく予定です。

大坊学長の「ここが採択のポイント」



科研とは異なるので採択傾向の特徴については分かりません。内容からしますと、関連研究の実績がそれなりにあること(偏食や食品添加物、放射能汚染など)はポイントだったのではないのでしょうか。確実に成果を上げるであろうとの審査者の判断が大きいものと思います。一般的には、科研の挑戦的萌芽以外では、申請者がしっかり成果を上げると予測できるかどうかは審査者の基本的なチェック・ポイントになるものです。



H27 年度 東京未来大学特別研究助成研究発表会報告

平成 28 年 3 月 9 日(水) 15 時から B225、B327 の 2 会場にて、H27 年度東京未来大学特別研究助成研究発表会が行われました。当日は 13 名の発表報告が行われました。また、他に出張の都合で口頭発表ができなかった 2 名の発表者については、共有フォルダ内の資料を以って発表に代えさせていただきました。多くの先生方の参加していただき、両会場も盛況のうちに実施されたことをご報告いたします。なお、当日の発表者と発表タイトルを以下に紹介いたします。

氏名	タイトル
三村昌司	地域歴史資料の活用に関する研究—兵庫県三木市を例に—
鈴木哲也	昭和初期の尋常小学理科学習帳に見られる解剖指導の実態
西村実穂	院内保育所における保育の質保障のための環境整備に関する研究
小林久美	環境保全に関わる市民性を育む小学校環境教育についての基礎的研究；英国の環境教育調査を基に
益井洋子	地域活動を契機としての保育・教育向上システム及び支援システムの構築
田中真奈美	海外長期滞在がパーソナリティや自己確立に与える影響
鈴木公啓	外見が自他に及ぼす心理的・身体的影響 (姿勢による印象形成, BNとBEDにおけるボディイメージ, 他3件)
近藤俊明	Peer Relationship Concerns and Absenteeism in Japanese School
出口保行	リエゾングループを媒介とした未来の子ども像に関する研究
日向野智子	潜在保育士の保育士就労促進における心理学的要因の研究
郭潔蓉	多文化社会におけるダイバーシティマネジメント —多様性の優位性と戦略的組織運営—
杉本雅彦	自由飛行型VR空間空覧システムの研究
平部正樹	通信制高等学校における精神保健および学習動機に関する縦断的研究

なお、以下の2名のご発表は、出張等のため共有フォルダ内の資料を以って発表に代替いたしました。

中和渚	ザンビア人との協働による初等数学教育の乗法単元のカリキュラム開発
鈴木光男	カンボジア初等図画工作科教育カリキュラムの構築とテキスト作成に向けた国際協力

発表の様子



編集後記

西村先生が獲得した「豆類振興事業助成金」のような業界団体の他に、産業界で貢献した人物の名を関した公益法人があります。今回の研究推進ニュースレターの助成金紹介ではそのような団体2件をご紹介します。こういった産業界からの外部資金は切り口によっては意外と広範な研究領域で取得が可能な場合もあります。ちょっと目のつけどころを変えて、このようなどころからの資金獲得に挑戦するのもいいと想います。

今後とも大学として、科研費をのみならず、様々な外部資金獲得に向けて邁進していきましょう。